

令和6年台風第10号特定災害対策本部会議（第3回）  
議事録

日時：令和6年8月30日16:00～16:28

場所：中央合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：【本部長】 防災担当大臣  
【副本部長】 副大臣（防災担当）  
大臣政務官（防災担当）  
内閣官房 危機管理監  
【本部員】 内閣官房 危機管理審議官  
内閣官房 内閣審議官（内閣感染症危機管理統括庁）  
内閣府 政策統括官（防災担当）  
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）  
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）  
内閣府 男女共同参画局長  
警察庁 警備局長  
（代理：警備運用部長）  
こども家庭庁 長官官房長（web出席）  
総務省 大臣官房総括審議官  
総務省 自治行政局公務員部長  
消防庁 次長  
財務省 大臣官房審議官  
文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部部長  
厚生労働省 大臣官房危機管理・医務技術総括審議官  
農林水産省 大臣官房危機管理・政策立案総括審議官  
経済産業省 大臣官房技術総括・保安審議官  
中小企業庁 次長  
国土交通省 水管理・国土保全局長  
国土交通省 大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官  
国土地理院 参事官  
気象庁 気象防災監  
海上保安庁 海上保安監  
環境省 環境再生・資源循環局長  
防衛省 統合幕僚監部総括官

1. 開会（内閣府政策統括官（防災担当）により議事次第に沿って議事進行）

## 2. 今後の気象の見通し

### <気象庁>

資料が3枚ございます。それぞれ順番に説明して参ります。

まず1枚目です。実況中心に最初に説明いたします。台風ですけれども、左下11時現在ですけれども、これ国東半島のそばにあります。15時現在の最新の情報ですと、松山市の西40キロを、東北東へ時速15キロという自転車程度のスピードで進んでいるという状況になっております。陸域にかかりましたので、もう少し弱まるかと思っただけですが、中央の下の図、雨雲の様子を見ていただきますとわかる通り、まだ台風の構造はしっかりと持っているということですので、強風圏内の各地、街中はそうでもないかもしれませんが、海沿いの地点では、10m以上の風が吹いているというところ。東に進んでおりますので関西方面でも、海べりの風速値が10mを超えるような地点が増えてきているということです。

2枚目を見ていただきますと、昨日とちょっと変えた左側の図でして、72時間降水量ですが、新しく72時間にしたことによって観測値との比較ですけれども、太い棒線があるところは、観測史上一位を更新していて、小さい棒線があるところが8月の記録を更新したところ。九州の東岸を中心に更新している地点がございますが、もう一つ、東海地方も非常に記録を更新しているところが多くなっております。それから前線上の岩手県も更新しておりますけれども、これは前線ということがございます。

戻っていただきまして、この特徴ですけれども、台風付近の雨雲もそうなのですが、この実況天気図に書き込んだ矢印、昨日も申し上げましたけれども、台風を回る南風と、高気圧の縁を回ってくる南風がぶつかるようなところ、関東から東海ですね、台風から離れておりますが、そこでもう強い雨が降っております。特に、この実況天気図、衛星画像等を重ねておりますけれども、台風の南東を見ていただきますと、南海上に非常に雲がたくさん立っているところがございます。対流活動が活発で、水蒸気もたくさん含んだ風が、台風からかなり東に離れたところでも関東・東海に入り込んで続けて入ってきている。この対流域はまだありますので、今後も関東から東海、近畿に渡って雨が降るということです。それから、台風が東に進むに従ってこの領域が狭くなって収束も強くなりますし、台風本体が入って参りますので、雨域もかなり広がってくるというふうに考えております。

今後の雨の様子ですけれども、右上の表ですが、見ていただきますと、昨日申し上げた東海地方が一番多いです。この収束域がぶつかる場所ですけれども、それから台風が近づいてくるということで、明日12時までの24時間、近畿も増えてくるということです。それから雨域が、台風が東に来るといってもありまして、北陸地方も日曜日の昼までの1日間で150ミリ、そのあとに200ミリという形で、今、北陸地方はそんなには降っておりませんが、台風が近づいてくるにしたがって、雨が増え

てくる可能性がある。それから関東は今朝もかなり降りましたが、引き続き、この南風がぶつかるところでもありますので、150ミリを1日あたりで、降り続けるだろうというふうに見ているところです。

それから3ページ目にいただきまして、現在、雨が降り続くことによって土砂災害の危険度がどこで上がっているかということですが、九州の南部の方は、キキクルの領域が少しずつ減ってきておりますけれども、北部それから山口県それから四国の西部は、まだ引き続き残っている。それから、最も今高い値が出ているのは神奈川県西部から伊豆半島の伊東のあたりです。このあたりの雨雲が全く取れず、土砂キキクルの数値としても高い状態が続いている。それから、静岡県全域のその海岸べりについても、引き続き土砂キキクルの高い値が続いているというところが見て取れると思います。

それから最後に、けが人や家屋の損壊と関係するということで、突風の発生状況を1つの図にしてみました。台風が近づく前に、鳥取県で1件ございましたけれども、台風が近づくに従って、宮崎県のところで2件ほど突風の地域があった。それから、昨日の未明ですけれども、埼玉県で、これはもう関東に上がってくる暖湿気による積乱雲による突風ですけれども、2件ほど報告が上がっているということです。

最後に、台風の予測位置ですけれども、今、松山のすぐ西におります。1ページ目の左下の図で見ていただきますと、今夜が四国の西部で、明日の朝が四国の東部になると、この辺までは予報がかなり安定して参りました。それから、9月1日の朝には、広い範囲でまだどこに行くかということですが、台風から普通の熱帯低気圧になるという予測になっています。そういう意味で、これから関西に近づいて参りまして、あまり位置が動かないので、雨の状況には十分注意をする必要があらうかと思えます。

### 3. 被害状況及び各省庁の対応状況等について

<内閣府政策統括官（防災担当）>

台風の被害状況の概要についてご報告いたします。

人的被害ですけれども、死者4名、調査中死者1名、心肺停止3名、また安否不明2名ということですが、このうち2事案は安否不明と同一の可能性がります。重傷10名、軽傷89名ということです。

また、建物被害ですけれども、全壊1棟、半壊2棟、一部破損137棟、床上浸水28棟、床下浸水222棟といった報告を受けております。

それから、ライフラインのところですが、昨日の時点では25万戸強の停電がございましたけれども、現時点で10万戸強というような状況です。

それから避難者数ですが、これも昨日の時点では3万人を超える方が避難をされておりましたが、現時点では6,100人強の方が避難をされているといった状況

です。

#### <警察庁>

警察では、本日午後1時現在、災害に関連して約1,604件の110番通報を受理しています。午前8時時点と比較すると関東地方での通報件数の増加が目立っており、特に神奈川県と埼玉県内の通報が増加しています。これらについて、救助を要する事案の通報はありません。

人的被害について、内閣府防災から説明のあったとおり、福岡県の京都郡みやこ町において、溝に人がはまって、冷たくなっているとの110番通報があり、現場に赴いたところ、心肺停止者を発見したという事案がありましたので、今、詳細確認中です。

この他、報道されていますが、神奈川県伊勢原市の新善波トンネルの入口において発生した土砂崩落については、自力で脱出されました3名の方以外に巻き込まれた方がいないかどうか、関係機関とともに確認をしているところです。

引き続き、全国警察では、迅速な部隊派遣に備えた即応態勢を確保するとともに、情報収集及び被害発生時の救出救助活動に万全を期すこととしております。

#### <消防庁>

消防庁といたしましては、昨日の台風第10号に関する関係閣僚会議の総理大臣の発言ですとか、この特定災害対策本部会議の情報等を地方自治体に提供し、引き続き災害対応に万全を期すことを要請しているところでございます。

現在消防庁では、全国各地で様々な事案が発生しておりますので、各消防本部に被害の規模や要救助者の状況等を確認し、官邸等に情報共有を図っているところでございます。

週末におきましても引き続きこの体制強化の状況を継続し、災害対応に万全を期して参ります。

また、被害の地域が変わってまいりましたので、被害があつて天候等が許した地域につきましては、消防防災ヘリコプターを飛ばしまして、被害の状況の確認等を進めて参りたいと考えてございます。

#### <海上保安庁>

昨日、鹿児島県鹿児島港内で救助をされた方にあつては、死亡が確認されております。なお、現在、引き続き身元の確認を行なっている状況です。

そのほか、現在まで海上において新たな被害情報には接しておりません。

また、悪天候により民間船の運行が不可能である中、鹿児島県と山口県の離島の停電復旧のため、各電力会社から職員及び復旧資機材の搬送に係る要請を受けまして、

巡視船艇による搬送を行っているところです。

また、28日から瀬戸内海西部に対し出していた港外避難等勧告については、台風の勢力が衰えたため、本日の午前1時に解除しています。

これに伴い勧告の発出を検討していました瀬戸内海の中部及び大阪湾については、発出を取り止めています。

一方で、湾外退避までは至らないですが、台風の影響を受ける瀬戸内海などの港においては、引き続き一定の船舶を対象に、余裕を持った安全な海域の避難を勧告しています。

引き続き自治体や関係機関と緊密に連携しつつ、事案発生時には人命を最優先に対応に万全を期してまいります。

#### <防衛省>

現時点において、自衛隊への新たな災害派遣要請はありませんが、台風の影響などにより、西日本から東日本の広範囲にわたり大雨となり、土砂災害や河川の氾濫などの可能性が高まっているため、現在、九州地方から東海地方等にかけて、地元の部隊が情報収集態勢を強化しております。また、15県の約110の自治体に対し、約230名の連絡員を派遣するなどして緊張感を持って対応を継続しております。

また、影響は週末にかけても継続する見込みであることから、万が一、河川の氾濫等による救助が必要になった場合に備え、水害対応用の装備品を携行した初動部隊や、天候の状況に応じて回転翼機等が直ちに対応できるように準備しております。

防衛省・自衛隊としては、引き続き、関係自治体等と緊密に連携をとりながら、緊張感を緩めることなく、災害に対応してまいります。

#### <総務省>

通信関係については、鹿児島県や宮崎県などの一部地域において、携帯電話サービスに支障が生じておりますが、通信事業者は復旧に向けた活動を開始しており、本日も作業員の安全が確認され次第、随時応急復旧を進めてまいります。

なお、「総務省・災害時テレコム支援チーム」の派遣を鹿児島県や宮崎県など計8県に対して行うとともに、衛星携帯電話、衛星インターネット機器等をプッシュ型で貸出ししております。引き続き、関係機関等と連携し、迅速に貸出しできるよう対応してまいります。

放送関係では、停電等により宮崎県、鹿児島県の一部地域で地上波テレビやケーブルテレビが停波しており、引き続き情報収集に努めるとともに、放送再開に向け、放送事業者と連携し、対応しているところです。

総務省としては、引き続き被害情報の把握、災害応急対策に全力で取り組んでまいります。

<文部科学省>

文部科学省では、26日に都道府県教育委員会等に対して注意喚起等を実施するとともに、昨日、文部科学省一丸となって、被災地における児童生徒の安全確保や応急対策等に取り組むため、災害応急対策本部を立ち上げ、省内の体制を確保しました。

学校における被害状況としては、本日14時時点では、大きな被害報告は受けておりませんが、児童生徒等の安全確保等のため、3,200校を超える学校で休校となっております。

引き続き、今後の台風の進路等を注視しつつ、教育委員会や学校等に対して必要な対応を行ってまいります。

<厚生労働省>

2点、ご報告があります。

1点目は、被害状況についてですが、昨日は20あまりの医療機関、社会福祉施設で停電等の被害と申し上げたが、数自体は20を下回っているが、床上浸水が福津市の高齢者施設において発生したということです。サービスが継続出来ているのか確認し、対応したいと思っております。

2点目は、週末に向けての備えですが、今日この後、省に戻りましたら厚労省の対策本部を開いて、自治体や関係団体とのこの週末の連絡体制や指差し確認をしたいと思っております。

<農林水産省>

先週の段階で、地方公共団体や防災重点農業用ため池の管理者に対して、ため池の事前点検や営農に影響のない範囲での水位の低下、これまでの大雨、地震などで被災した、ため池における応急措置の再確認などを行うよう促しているところです。

農林水産関係の被害については、現時点において、複数の県から農地や水路、林地や林道などへの被害報告を受けているが、農業用ダムやため池の被害情報は今のところ入っておりません。

九州地方の各県の中央卸売市場ですが、昨日と本日、臨時の休市を行っていますが、これは計画的な臨時休業でして、産地には事前に通知をして行ったものですので、現在のところ、特に混乱は生じてないと聞いています。

施設への被害は、現在確認されておりませんので、明日以降、通常通りの取引きを再開する見込みだと聞いています。

昨日夕刻に改めて坂本農林水産大臣出席のもとで、省内対策本部を開き、大臣からも、人命最優先で省をあげて取り組むようにと改めて指示が出たところです。

農林水産省としては、引き続き現地との連絡を密にし、農林水産関係の被害を速や

かに把握した上で、緊張感を引き続き持って対応してまいります。

#### <経済産業省>

電力については、風雨の状況を見ながら、作業員の安全を確保した上での巡視・復旧作業が進められており、本日 13 時時点での停電戸数は、九州地方等で約 10 万 5 千戸となっています。復旧率は約 6 割です。

被害が大きかった鹿児島県、宮崎県、長崎県は本日中に巡視が完了する見通しと聞いており、集中的に復旧を進めてまいります。

また、一部の病院をはじめ停電中の重要施設については、関係省庁や各県の対策本部等を通じて、自家発電の稼働状況を含めて情報を把握し、石油業界との連携のもと、発電用燃料の供給体制を構築済みです。引き続き、電力の優先的な復旧対応にあたってまいります。

都市ガス等については、特段の被害は報告されていません。引き続き緊張感をもって情報収集、早期復旧にあたってまいります。

#### <国土交通省>

これまで合計で 433 市区町村長等とのホットラインの構築し、のべ 170 名のリエゾンの派遣、のべ 89 台の災害対策用機械等の出動など、先手先手の対応に努めています。今後とも被災箇所の応急対応に努めていきたいと思っております。

今朝、国道 246 号の新善波トンネル坑口における土砂崩落が発生しました。人的被害がないことは、確認しています。引き続き早期の応急復旧を行い、交通開放を目指しているところです。

河川に関しては、大分県等の県管理等の 20 河川において氾濫による浸水被害が確認されています。なお、15 時 50 分現在、国直轄で管理している河川では、避難判断水位を上回っている河川はないと報告を受けています。

ダムについては、本日 12 時時点で、過去最大となる 141 ダムの事前放流を実施しています。また、洪水調節を行っているダムも含めて全国 321 ダムで被害軽減に取り組んでいます。

鉄道については、本日は、九州新幹線の博多～鹿児島中央間、山陽新幹線の広島～博多間、東海道新幹線の東京～名古屋間が運休となっています。なお、西九州新幹線については、最新の状況では、本日午後から運転を再開しています。明日、東海道新幹線は三島～名古屋間で終日運休の予定。一方で、東京～三島間、名古屋～新大阪間においては、こだまを臨時で運行させ、上下各 2 本ずつ運行させる予定です。

また、航空便については、九州・中国・四国発着便を中心に、11 時時点で 861 便が欠航となっており、大分、徳島、高知の空港などにおいては、本日全便欠航となっております。九州・四国発着の長距離フェリーについては欠航となっております。

関東地方において鉄道の施設被害が発生しています。小田急電鉄の小田急線が、路盤流出等によって伊勢原～小田原間において運休が発生するなど、2事業者2路線で運転を見合わせています。

引き続き、被害状況を迅速に把握するとともに、テックフォースの派遣など、応急対策に全力で取り組んでまいります。

#### <環境省>

河川の氾濫により浸水被害が生じた岩手県、愛知県、三重県、大分県、宮崎県に対して災害廃棄物処理に関する事務連絡を発出し、初動対応について徹底を図っています。

現時点において、廃棄物処理施設に大きな被害を受けたという報告はきていません。引き続き、万全の体制で対応してまいります。

#### <内閣府男女共同参画局>

今般の災害対応に当たり、内閣府男女共同参画局では、被災自治体の男女共同参画部局に対し、各地域の男女共同参画センターとも連携しながら、「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」に基づく取組を進めるよう、28日から要請をしているところです。

特に避難所の開設・運営に当たっては、女性の視点からの「避難所チェックシート」を活用し、被災者のプライバシーに配慮したスペースの確保、例えば男女別の更衣室や授乳室等、安全で利用しやすいトイレの設置、女性と男性で異なるニーズに対応するための、避難所の運営体制への女性の参画、など取組を要請いたしました。

関係省庁の皆様におかれましては、各種対策を行う際には女性と男性で異なるニーズ・影響に十分配慮していただきますよう、お願い申し上げます。

今後とも災害による被害状況を注視しつつ、都道府県・市町村と連携し、女性の視点に立った災害対応に取り組んでまいります。

(報道関係者入室)

#### 4. 特定災害対策本部長発言

##### <松村特定災害対策本部長>

台風第10号により、本日、午後2時時点で、人的被害として、死者4名、災害との関連を調査中の死者1名、心肺停止者3名、安否不明者2名、重傷者10名などがあります。

住家被害として、全壊1棟、半壊2棟、一部破損137棟、床上浸水28棟、床下浸水222棟が報告されております。

また、九州を中心に、停電約 10 万戸のほか、断水や通信障害など、ライフラインの被害が報告されております。

亡くなられた方々にお悔みを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

台風の勢力は弱まっておりますが、大雨は9月1日頃まで続き、特に、東海地方、四国地方、近畿地方では、明日 31 日にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。

明日から週末となりますが、本部員の皆様におかれては、引き続き、万全の態勢を確保し、地方自治体や関係機関と緊密に連携し、二次災害にも十分注意しながら、早急な被害状況の把握にあたるとともに、人命を第一の災害応急対策やライフラインの早期復旧に全力で取り組んでください。

特に、電力については、関係機関の皆様のご尽力により当初に比べて、停電戸数が半分以下となっておりますが、引き続き、天候等にも十分注意しながら、早期の復旧にあたっていただくようお願いいたします。

地方自治体の首長の皆様には、地元の气象台とも緊密に連携し、空振りを恐れずに、避難指示等を出していただくようお願いいたします。

これまでの記録的な大雨により、地盤の緩みや河川の水位が高いところがあり、少しの雨でも災害の危険度が高まります。

国民の皆様におかれましては、最新の気象情報や地方自治体からの情報に十分にご注意いただき、早めの避難や危険な場所には近づかないなど、自らの命を守る行動をお願いいたします。

関係省庁の皆様におかれましては、本日の会議の内容も踏まえ、引き続き、緊張感を持って災害対応にあたっていただくよう、お願いいたします。

(報道関係者退室)

## 5. 閉会